



6月26日 六代会長任命お運び
親々の真実あふれる姿勢を
つないでいきます



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp

LINE 友達登録
お願いします

貴方への手紙 (326) (最終回)

今は6月、北海道は過ごしやすい季節です。しかしいつものように活気が出ません。もう2年も新型コロナウイルスの流行に世界が悩み大きな影響を受けています。当たり前前にできたことが出来なくなり、これまでにありがたい生活をしてきたかあらためて感じさせられています。

しかし長いトンネルにもやがて出口が見え、まもなく晴れやかな世界が取り戻されるでしょう。せつかく陽気ぐらしの教えを聞いているのですから、こんな時こそ笑顔を忘れず感謝して暮らしたいと思えます。

今できることは少ないかもしれませんが。誰かを喜ばせ幸せにすることが出来るかもしれません。人間は一人ぼっちではありません。心で誰かと繋がりたいのです。声をかけましょう。語り合うと元気が出ます。共に乗り越えましょう。

お知らせ

七月月次祭 世話人・喜多秀和先生巡教
7月15日(木) 9時30分開扉献饌
祭典の模様をライブ配信します

生活が変わり世の中のあり方が大きく変わると言われますが人が人を大切に思うこと、誰かを幸せにしたいこと、自分が幸せになりたいことは変わりないと思います。

おかげさまで6月26日には後継者藤田大和が存命の教祖から夕張大教会六代会長のご任命を頂く運びとなりました。ありがたいことです。新たな門出に一層のお心寄せを頂ければ幸いです。

私は72歳。在職34年を振り返るにはまだ早いのですが様々なことが浮かびます。数々のご守護。先輩や皆さまに御尽力頂いたこと。そのときの皆さんの笑顔。思い出すと嬉しくありがたく感激がよみがえります。

私は元来、嬉しかったこと、ありがたかったことばかり記憶に残る人です。苦しいこと嫌なことは忘れようと思えます。わりあい陽気に暮らしてきたかもしれません。

しかし反省はあります。もっ

と周りの人に喜んでもらって、もっと幸せになつてもらえたら良かったのと思います。自分一人の力は小さいもの。誰かのお世話になつて出来たことばかり。感謝しかありません。

今も思い出すことがあります。前会長から自分に責任が渡されるとき実は大変なプレッシャーがありました。しかしお運びの二ヶ月前、大きな事故に遭いそうになったところを無難にたすけて頂いたとき人間思案は吹き飛びました。生きていたのだから、ひたすら御用に使って頂きたいという気持ちになりました。これは私の会長としての出発点、元一日です。

そして私は昭和62年6月26日任命のお運びを迎えたのです。お許しを頂いたとき何が心にかぶか。それを楽しみにしていたのですが意外なことが浮かびました。

「次は誰かに譲るときだ」
「ひとの信仰の邪魔を」
「つてはいけな」

五月月次祭の様様

大教会でも国道沿いの桜が満開となり、参拝者や道行く人の目を楽しませた。一方で、道内のコロナ感染者は増加の一途を辿り、大教会月次祭翌日の16日より再度の緊急事態宣言が発令された。

5月15日、この日は日中20度を超え、おつとめ衣では少し汗ばむような陽気となった。開扉献饌のち祭文奏上。祭文で大教会長は6月に迫った六代会長任命のお運びについて言及し、順調に事が運ぶようお願い申し上げ、その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。講話には昨年就任した二人の

もつと華々しいことを期待したのですがこの二つでした。それ以来この二つの言葉は心から消えることなく現在に至っています。人の信仰の邪魔をしたかどうか分かりませんが、おかげで何とかここまで来ることができました。教祖が私の心にいましめを下さったのだと思います。

貴方への手紙はこれで終わりますが、貴方からの手紙は欲しいと思います(笑)

長らくのおつきあい、ありがとうございました。(6月5日)



若手会長が指名され、まず学生担当委員長を務める富山知一・栗山分教会長が壇上に立ち「まだ私が仕事をしていたある夜の事、妹から電話があり、『父が倒れて、救急車で運ばれた。命が危ない』と連絡を受けました。冷静を装ってはいいましたが、不安で一杯になりながら、父が搬送された岩見沢市立病院へ家族や兄弟が皆、父の危機に集まりました。

医者の説明では、高カリウム血症という病気で、血圧が一気に低下し、最悪の場合心臓が止まってしまふ、という事でした。私が説明を受けているカーテン越しで父は横になっており、意識が無い中で嗚咽を繰り返している状態でした。あまりの光景に私は何も考える事が出来なくなっていました。

ペースメーカーを付ける緊急手術が行われる事になり、手術中、私は長男を連れて、隣の大教会へとお願いつとめに行く事にしました。夜の11時過ぎ、暗

く静かな大教会の神殿で、必死のおつとめを二人でさせてもらいました。おつとめ中も内心は心配で、心臓の音がバクバクと聞こえる程でした。神殿を出るとロビーに電気が点いており、覗いてみると大和さんがいました。父の身上の事を説明すると、すぐに大教会長さん奥さん美由紀さんを起こしてきて下さり、皆で改めてお願いつとめをさせて頂きました。

この2回目のお願いつとめでは、何故だか先程のような動悸も治まり、落ち着いていくのを感じました。おつとめが終わった後、大教会長さんが『大丈夫だから、大丈夫だから』と声を掛けて下さり、その言葉がスツと胸に入ってきて『大教会長さんが大丈夫と仰るんだから大丈夫だ』と安心する事が出来ました。父の無事を心から信じる事が出来、長男と二人でスツキリした気持ちで病院に戻った事を思い出します。神様のご守護で父の命は助けて頂きましたが、今でもその夜のお願いつとめの感激をはつきりと覚えています。

私がおたすけしているIさんという方がいて、筋萎縮性側索硬化症という全身の筋肉が徐々に衰えていく難病です。私の就任奉告祭を間近に控えた頃、I



さんへおたすけに行くこと、『お父さんにおさづけを取り次いでいるか』と聞いてきました。私が『身内の気恥ずかしさもあつて、父には中々言い出せない』というのと、『私に取り次ぐ前に、お父さんにおさづけを取り次ぐ事を約束してくれ』と仰いました。私は複雑な気持ちでしたが『はい』と答えて約束をして、Iさんにおさづけを取り次ぎました。

家に帰って、約束通り父におさづけを取り次ぐべきでしたが、断られるのではないかと思ひ、言い出す勇気が出ません。しかし、約束だから、と思いつつ父に申し出ると、「はい、お願いつとめします」と二つ返事で承諾してくれました。素直に答えてくれた父に、私はとても救われました。それから奉告祭までの間、父におさづけのお取次ぎをさせて頂いてきました。

Iさんは病状が徐々に進んでいます。私はこの信仰で命を助けて頂き、教祖に喜んで頂くんだ」と仰って、勇んで毎月おちば帰りをされています。そ

の姿を見て、私も会長として務める間は毎月おちばへ帰ろう、と心定めをして、なんとか無事に1年が経過致しました。そんなIさんへのおたすけを通して感じた事が、取り次ぐ自分自身が五体満足で御用に使って頂ける有難さ、喜びであります。

『人助けたら我が身助かる』という言葉を、自身で実感させて頂いているこの頃です」と話した。

次に、少年会夕張団団長の藤田豊・幌都分教会長が壇上に上がり「昨年11月26日に教会長のお許しを戴きました。皆さんに色々とお知らせしながら、歩んで参りたいと思います。

こどもおちばがえりは、今年も中止と発表されました。中々活動が出来ない状況が続いております。本部の団長会にて配布された会報を読みますと、『今年活動方針や重点項目で日々の陽気ぐらしの実践や子どもと一緒に教会へ参拝する事、ひのきしんをする事など、子どもとの身近な信仰実践や子どもへの細やかな丹精を呼び掛けています。活動や行事の開催が難しい今、まずはこうした丹精をしっかりと動かし、今年のこともおちばがえりは中止となりましたが、今後少年会では子どもに信仰の

ひきよせ

(3)

喜びを育んでもらえるように、おちばでまた国々所々でどんな事が出来るのかを考えていきたいと思います』とありました。

少年会本部からのアクションを待っているのではなく、夕張にフィットした活動をどんどん提案させて頂きたいと考えています。各教会や家庭で出来る事、どうかご意見をお寄せ下さい。今後も企画や動画をネット上にアップしていきますので、手間に思わず楽しむ気持ちで、お子さんと是非ご参加頂いたり、動画を視聴して頂きたいと思いま

す。

今回、こどもおちばがえりのテーマソングが新しくなりました。『ありがとうー夏のおちば』という曲です。現在、夕張団鼓笛隊は活動を休止中であり、中々子どもを集めて練習出来る状況でもありません。また、リモートで練習、というのも様々な課題があり、現状難しいところです。そこで、今回は鼓笛隊OBをはじめとした大人の方に、



この曲を練習してもらおうと思っ
ています。大人達が真剣に練習し、上達していく様子を子ども達に見せてもらいたいです。そしてそれぞれが演奏している様子を動画で撮影し、こちらで集約して一つの合奏の動画を作ろう、という企画を考えています。周りの方を誘って参加してくれると嬉しいです。鼓笛未経験の方も大歓迎です。

また、9月4日の就任奉告祭の後、9月20日に少年会総会を2年ぶりに開催する予定です。感染状況によってはオンライン開催の可能性も考えています。皆さんの少年会員へのお声掛けが肝要と思います。どうかご協力をお願い致します。」と語った。

大教会長は挨拶で「先日、真柱様に、「今の状況では大勢の参拝が難しく、ご臨席のお願いができるかどうか」とご相談申し上げると、『状況がまた変わるかもしれない。もう少し様子を見てはどうか』とのお言葉を頂きました。可能性を捨てずに前向きに考えておられる発言に、驚くと共にとても感激しました。

私が会長として祭文を読むのは次の6月の祭典が最後です。いよいよ、来月は会長として最後にこの場に立つ訳ですが、これまでの感謝とお礼を述べたいと

思います。まだまだ後ろを振り返る気にはなれませんが、これからも出来る事を少しずつでもと思ひますので、どうぞよろしくお願いします。」と述べられた。

札美分教会・五代会長 就任奉告祭

去る5月22日、札幌市豊平区の札美分教会にて、五代会長就任奉告祭が執り行われた。

会長夫妻は、この日のために何日も泊りがけで準備をし、当日は、前会長家族、いつもよく教会へ運んで下さる数名と共に勇んでつとめられた。前会長・藤田大和氏と3人の子ども達と一緒にてをどりを踊る微笑ましい光景もみられた。

藤田美重子会長は、阿部美子三代会長の通ってこられた道、経歴等を交えて、新会長としての決意、意気込みを語った。



暮らしと信仰

― 月様のお恵み ―

満月の月が、黒い闇に欠けていく現象の皆既月食が、この5月26日に国内どこでも観測された。皆既月食は太陽と地球と月が一直線に並ぶことから、地球の影で月が欠けるのだが、まだ明るさの残る7時半頃には右下から欠けていき、8時過ぎには左上だけの薄っぺらな月になって、全てが消えた。と言っても、

生とキャンプをした。谷の奥でキャンプファイヤーをして就寝の時間となつたら、途端に中央の外灯が消えて、ビククリするほどの暗さになった。離れた所のトイレに歩いて行けない程で、ほのかでも月の明かりがどれほど有り難いかと思った。(教祖伝では、月明かりで糸紡ぎをされたとあるが。)昨今は24時間営業の店舗の照明や看板が、光害と言われる。

今回の満月は今年一番大きく見える満月で、スーパームーンという赤く見えるものだった。意外と珍しいと思いきや、10年に一度と言われるが、2年前にもあり、来年も見られるらしい。

さて、キャンプで懐中電灯も少なく、何人かまとめてトイレに連れて行く途中で、暗い森の中から、ホーツホーツというフクロウの声が聞こえた。低いが響く声は、生命の輝きのように、私達の心に灯りをもしてくれた。

話は飛ぶが、池波正太郎という作家の鬼平犯科帳という時代小説には、真の闇の夜に、黒装束の盗賊が、千両箱を担いで逃げる後を、長谷川平蔵という「火付盗賊改」の長官おかしらが、ピーツという呼ぶ子が鳴り響く中、堀から舟で現れる。ガンドウ提灯の口ウソクの灯りでは暗くて見えないのでは？



もう20年も前、当別町の「道民の森」で9月の連休に、中学

奉告祭へのステップ 教区長様、御視察

5月14日11時より、教区長・西垣定洋先生が、夕張の会長任命の手續きの視察にお越しになられた。

4月に教区に提出された願書について確認する上から、教区長の立場で来会頂いた先生は、早速に教服に着替えられ、新任される大和さんを数取に、座りづとめを勤められた。その後、ご挨拶を頂いた。先生はご自身と奥様の身上を通して、かりもの有難さと、どこまでも神一条の心持ちで凭れ切って、古き道を忘れず、夕張の根をしつかりと張るよう努力されますよう

訃報

札美分教会初代、三代会長
阿部美子様 享年98歳



札美分教会初代・三代会長阿部美子様が6月6日、静かに出直された。晩年は肝細胞癌の末期で余命1年と宣告を受けたが、

に、とお話下された。

その後、願書は御本部に提出されて、6月初旬に大和さんは任命講習を受講し、6月26日、帰参する役員と共に、晴れて六代会長の任命のお運びとなる。



それから実に3年近くも元気で暮らされた。幼い頃から母親と撫養大教会に毎月参拝され、自らも二十歳の頃に助かる見込みのない程の大病をおさづけによつてご守護頂かれ、兄の背に負ぶさつて修養科38期へ進み、おぢばで全快された。先生は若くして布教を志し、昭和40年札美布教所、同44年札美分教会を設立され、初代・三代会長として多くの人々をおぢばへ導かれた。ここに謹んで哀悼の意を表します。

教会長資格検定 講習を受講して 梶川文吾(新生生)

4月27日から5月18日までの約3週間に渡り教会長資格検定講習に行かせていただきました。本来であれば去年の5月受講する予定でしたが、コロナ禍の影響で講習自体が中止となり、今回の受講となりました。

出発の直前、関西方面はコロナウイルス感染者数がピークに達する状況。一時は再度受講を延期しようかと考えましたが、夫婦で話し合いを重ね、神様にもたれて通ろうという事になり今回の受講に至りました。

おぢばで学ぶのは専修科を卒業して以来18年ぶりでした。一つひとつの授業が高度でなるほどと思う内容が多く、特に三原典(おふでさき、みかぐらうた、おさしづ)は親心いっぱいのやさしさに溢れるものである事を教えていただけましたが一番心に修まった内容と思います。また、こんなにくつくりとおぢばで過ごせたのも久々で、毎日3回教祖殿に参拝し、様々なお話を教祖にできた事もとてもありがたかったです。

コロナ禍ということもあり中々同じ講習生の方々とは深く

交流ができない日々でしたが、おぢばで学ぶという貴重な時間をいただけました。この学びを今後の教会活動に活かしていこうと思います。



ふふさんぽ 公開中

天理本通り周辺の店を食べ歩き。ふふさん(会長さん)らしいユーモアで紹介されています。右のQRコードがYouTubeで「ふふさんぽ」と検索して下さい。

天理本通りをぶらぶら Cofufun

肉も大きい!

庶務部 5月

▽教会長資格検定講習修了

梶川 文吾(新生生) 4・27～5・17

▽詰所ひのきしん

阿部 恭子(直轄) 5・8
渡部 優理(善進道) 5・25～6・28

▽詰所教養掛

5月 千葉 祐生(大龍)
6月 渡部 辰大(善進道)

大教会日誌抄5月

1日 たすけ推進会議

奉告祭準備ひのきしん

～2日

7日 会長夫妻、札美分

9日 奉告祭準備ひのきしん

10日 ひきよせ編集

14日 任命願書・教区長視察

15日 月次祭準備

18日 会長夫妻、札美分へ

19日 会長夫妻、札美分月次祭

22日 札美分教会・五代会長

23日 就任奉告祭

23日 国道みまもり隊活動

24日 会長、おぢばへ

24日 会長、本部神楽当番

26日 本部月次祭

27日 遥拝式

28日 会長、かなめ会

28日 会長、帰会